



目次

- 1. 改訂情報
- 2. はじめに
- 3. システム要件
 - 3.1. intra-mart Accel Platform
 - 3.2. 検証済み環境
 - 3.2.1. サーバ環境
 - 3.2.2. クライアント環境
- 4. セットアップ方法
 - 4.1. モジュールの追加
- 5. Slash Command から IM-LogicDesigner を起動する方法
 - 5.1. 実行されるフローを生成
 - 5.2. Custom Slash Command の登録
 - 5.3. Verification Token の登録
- 6. IM-LogicDesigner からSlack へメッセージを送信する方法
 - 6.1. 単純なメッセージの送信
 - 6.2. 返信メッセージの送信
 - 6.3. 正式なユーザとしてメッセージを投稿
 - 6.4. bot の名前、アイコンの変更
 - 6.5. リンクボタン付きメッセージの投稿
 - 6.6. interactive message button付きのメッセージの投稿
- 7. IM-LogicDesigner で利用可能なタスク
- 8. 著作権および特記事項

改訂情報

変更年月日	変更内容
-------	------

2018-12-01	初版
------------	----

はじめに

本書では Slack と intra-mart Accel Platform を連携するためのモジュールについて記載されています。
Slack連携モジュールでは以下の機能が提供されます。

- IM-LogicDesigner用Slack連携タスク
- IM-LogicDesigner - Slash Commands連携用エンドポイント

システム要件

当バージョンにおけるシステム要件は次の通りです。

項目

- [intra-mart Accel Platform](#)
- [検証済み環境](#)

intra-mart Accel Platform

- intra-mart Accel Platform 2018 Winter(Urara) 以降のご利用のバージョン に準じます。

検証済み環境

- 以下、弊社動作検証済みの intra-mart 製品と他社ミドルウェア製品との組み合わせです。

サーバ環境

- intra-mart Accel Platform 2018 Winter(Urara) の検証済みサーバ環境に準じます。

クライアント環境

- intra-mart Accel Platform 2018 Winter(Urara) の検証済みクライアント環境に準じます。

ここでは IM-Slack のインストールと設定方法について説明します。

インストールおよび設定は、IM-Juggling で行います。

以下の手順を行うことで IM-Slack を intra-mart Accel Platform 上で利用できます。

モジュールの追加

IM-Slack を利用するには、追加機能より「Slack 連携」モジュールを選択し WARファイルを作成します。

1. [追加機能 - 外部システム連携機能 - Slack 連携]モジュールを選択します。



2. その他、任意の設定を行い、WARファイルを作成します。

Slash Command から IM-LogicDesigner を起動する方法

ここでは、Slack の Slash Command を受け付けて IM-LogicDesigner を起動する方法を説明します。

- [実行されるフローを生成](#)
- [Custom Slash Command の登録](#)
- [Verification Token の登録](#)

実行されるフローを生成

Slash Command で実行される IM-LogicDesigner を作成します。

ロジックフローの作成方法は「[IM-LogicDesigner ユーザ操作ガイド 4.1 ロジックフロー](#)」を参照してください。

フローの入力値には以下のパラメータを受け取ることができます。

```
$input <object>
├─ args <string[]>
└─ payload <object>
    ├─ token <string>
    ├─ command <string>
    ├─ text <string>
    ├─ response_url <string>
    ├─ trigger_id <string>
    ├─ user_id <string>
    ├─ user_name <string>
    ├─ team_id <string>
    ├─ team_domain <string>
    ├─ enterprise_id <string>
    ├─ enterprise_name <string>
    ├─ channel_id <string>
    └─ channel_name <string>
```

args には Slash Command の第2引数以降の引数が配列で受け渡されます。

payload に含まれる各パラメータについては、「[Slack Web API Slash Commands](#)」を参照してください。

フローの返却値には、Slack に返却する応答メッセージを設定してください。

処理結果は JSON 文字列に変換して Slack に返却されます。

例

```
$output <object>
├─ text <string>
└─ attachments <object>
    └─ text <string>
```

Custom Slash Command の登録

1. Slack app を作成し、Custom Slash Command を登録します。

- ・ **Command**、**Short Description**、**Usage Hint** にはそれぞれ任意の値を登録してください。
- ・ **Request URL** には、以下のように URL を指定してください。
 1. シングルテナントで運用している環境、またはURLによるテナントの自動解決が有効になっている環境の場合
`https://<Accel platform Domain>/<CONTEXT_PATH>/slack/slash/command/<flowId>`
 2. マルチテナント で運用している環境の場合
`https://<Accel platform Domain>/<CONTEXT_PATH>/slack/<Tenant ID>/slash/command/<flowId>`

Verification Token の登録

intra-mart Accel Platform に Slack のVerification Token を登録します。
登録したトークンは、Slash Command を受け付けた際の検証に利用されます。

App Credentials

These credentials allow your app to access the Slack API. They are secret. Please don't share your app credentials with anyone, include them in public code repositories, or store them in insecure ways.

App ID Date of App Creation

Client ID

Client Secret

You'll need to send this secret along with your client ID when making your [oauth.access](#) request.

Signing Secret

Slack signs the requests we send you using this secret. Confirm that each request comes from Slack by verifying its unique signature.

Verification Token

This deprecated Verification Token can still be used to verify that requests come from Slack, but we strongly recommend using the above, more secure, signing secret instead.

1. テナント管理者でログインし、サイトマップより「テナント管理」 - 「テナント情報」 - 「Slack連携」をクリックします。
2. Slack の Verification Token を検証トークンに入力し「更新」ボタンをクリックします。

Slack連携

検証トークン設定

検証トークン

以上の設定を行うと Slash Command から IM-LogicDesigner を起動できます。

IM-LogicDesigner からSlack ヘメッセージを送信する方法

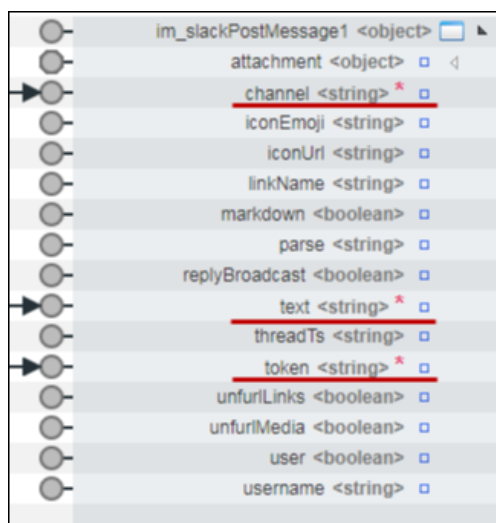
ここでは、IM-LogicDesigner からSlackヘメッセージを送信する方法を説明します。

IM-LogicDesigner から Slack ヘメッセージを送信する場合は、「[メッセージ送信](#)」タスクを利用します。

- 単純なメッセージの送信
- 返信メッセージの送信
- 正式なユーザとしてメッセージを投稿
- bot の名前、アイコンの変更
- リンクボタン付きメッセージの投稿
- interactive message button付きのメッセージの投稿

単純なメッセージの送信

単純なメッセージを送信する際には、`channel`、`text`、`token` の値を設定してタスクを実行します。

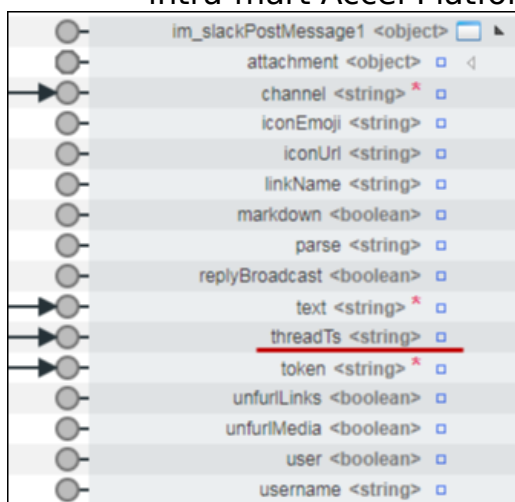


タスクが実行されるとbotとしてメッセージが投稿されます。



返信メッセージの送信

任意のスレッドへの返信メッセージを送信する場合には、`threadTs` に返信先のスレッドのタイムスタンプを指定してタスクを実行します。

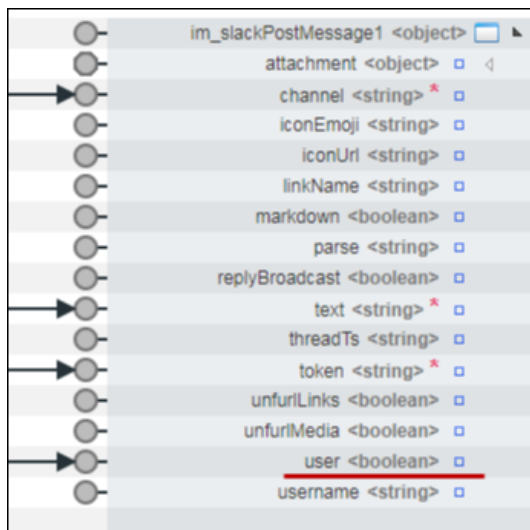


タスクが実行されると指定したスレッドへ返信メッセージが送信されます。

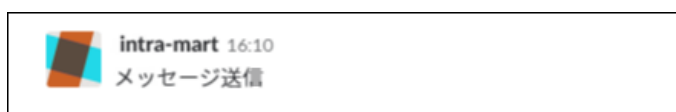


正式なユーザとしてメッセージを投稿

botとしてではなく、正式なユーザとしてメッセージを投稿するには `user` を `true` にしてタスクを実行します。

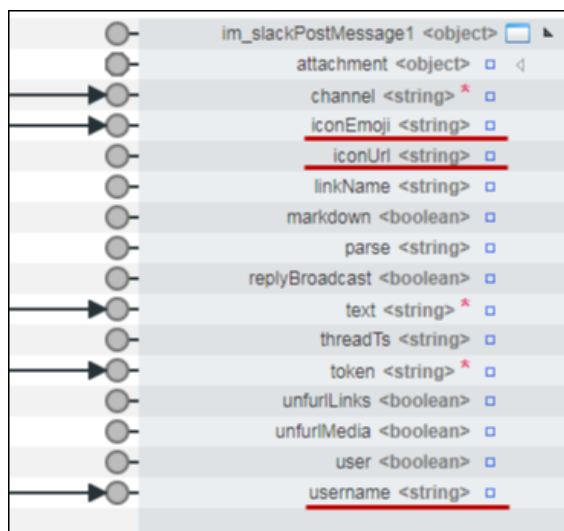


タスクが実行されるとtokenで認証された正式なユーザとしてメッセージが投稿されます。



bot の名前、アイコンの変更

botとしてメッセージを投稿する際のユーザ名、アイコンを変更したい場合は、`username` にbot の名前を、`iconUrl` または `iconEmoji` にアイコンを指定してタスクを実行します。

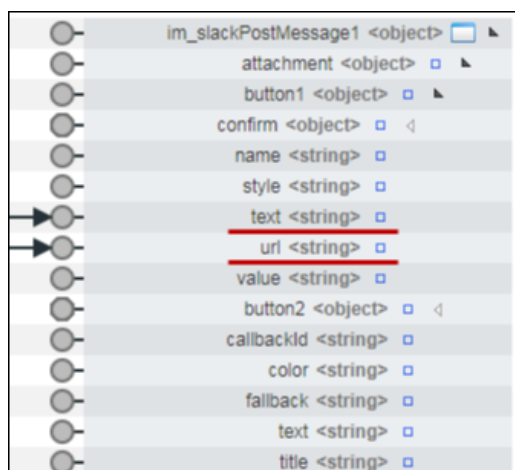


例えば、`username` に「bot」、`iconEmoji` に「:smile:」と指定してタスクを実行すると以下のようにメッセージが投稿されます。



リンクボタン付きメッセージの投稿

リンクボタン付きのメッセージを投稿する場合は、「`attachment - button1 - text`」にボタンに表示するテキストを、「`attachment - button1 - url`」にリンク先のURLを設定してタスクを実行します。



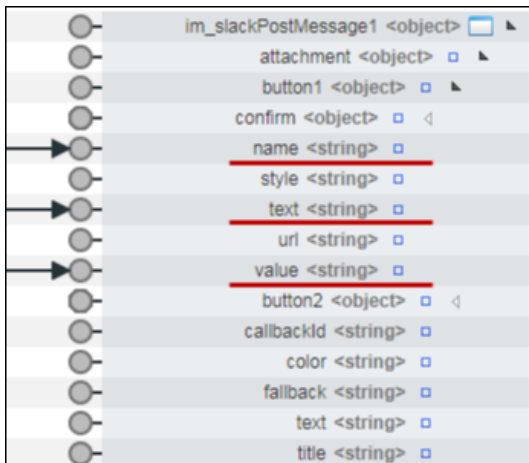
例えば、`text` に「intra-mart」、`url` に「<https://www.intra-mart.jp/>」と指定してタスクを実行すると以下のようにメッセージが投稿されます。



ボタンをクリックするとリンク先URLに指定したページが表示されます。

interactive message button付きのメッセージの投稿

interactive message button付きのメッセージを投稿する場合は、「attachment - button1 - text」にボタンに表示するテキストを、「attachment - button1 - name」にボタンをクリックした際に送信されるパラメータの名前を、「attachment - button1 - value」にボタンをクリックした際に送信されるパラメータの値を設定してタスクを実行します。



例えば、text に「承認」、name に「action」、value に「approve」と指定してタスクを実行すると以下のようにメッセージが投稿されます。



ボタンをクリックするとSlack に設定されているRequest URL に「name」、「value」の値を含むパラメータが送信されます。

interactive message については、「[Slack Interactive messages](#)」および「[Slack Attaching interactive message buttons](#)」を参照してください。



注意

「[メッセージ送信](#)」タスクは、ボタンを2つまで配置できるように作成されています。3つ以上のボタンを配置することや、ボタン以外のコンテンツを配置することはできません。

IM-LogicDesigner で利用可能なタスク

IM-Slack では IM-LogicDesigner で利用可能な以下のタスクを提供します。

1. [ユーザ情報取得](#)
2. [メッセージ送信](#)
3. [ファイルアップロード](#)

intra-mart は株式会社 NTT データ イントラマートの登録商標です。

Oracle と Javaは、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の米国およびその他の国における登録商標です。

文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。

本製品を使用する場合は、本製品に含まれる各ソフトウェアのライセンスについても同意したものとします。

以上